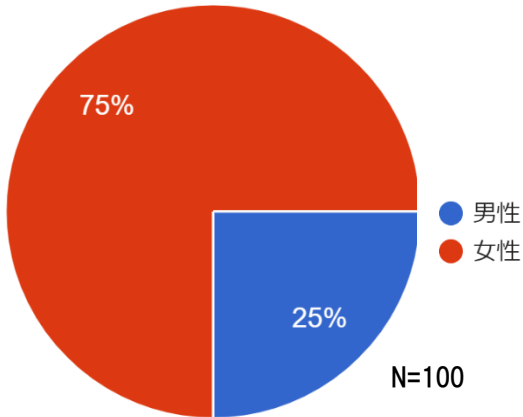
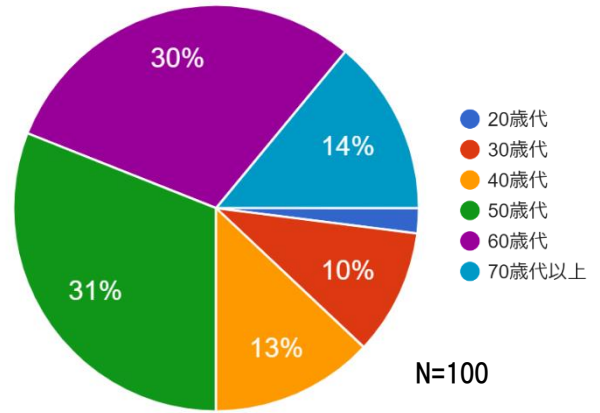


がん患者さんやご家族の方へアンケート調査 2020年10月1日～11月15日

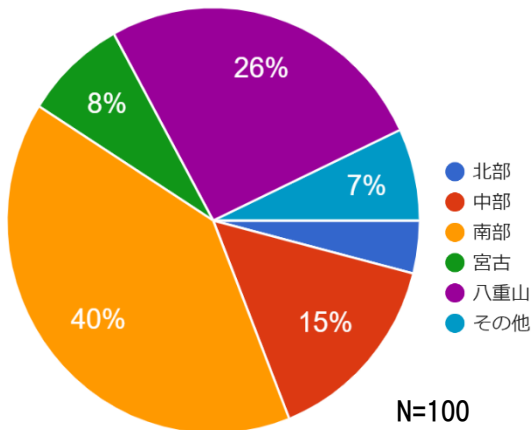
【性別】



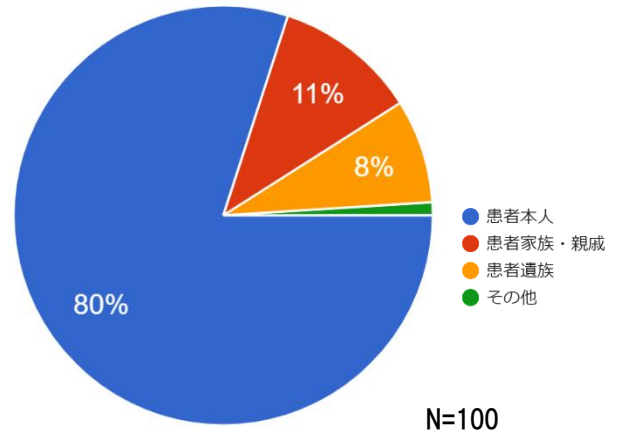
【年齢】



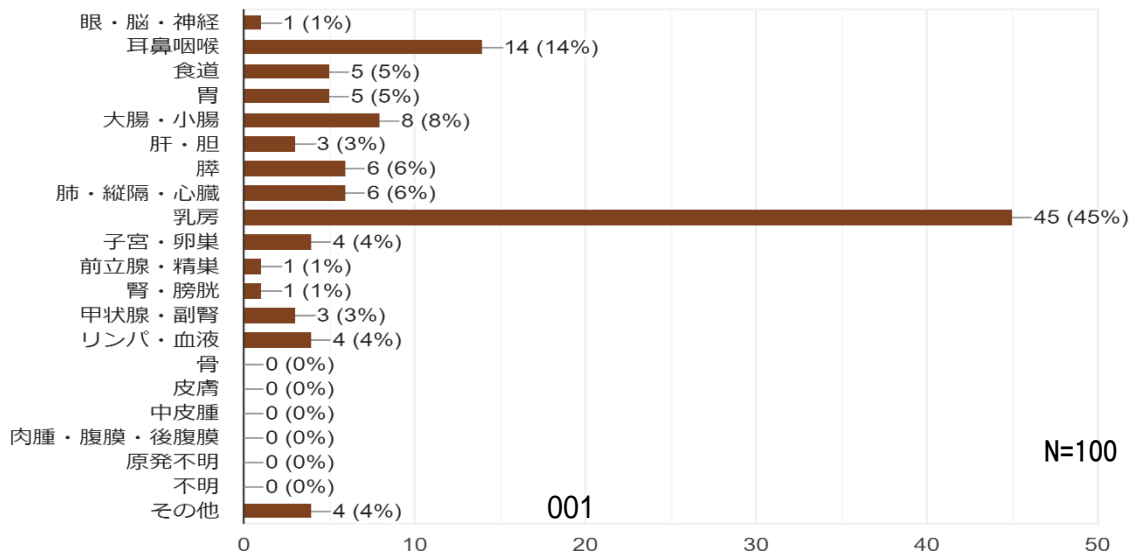
【お住まい】



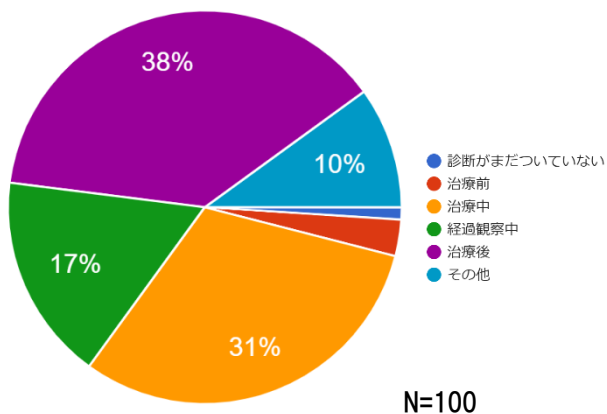
【お立場】



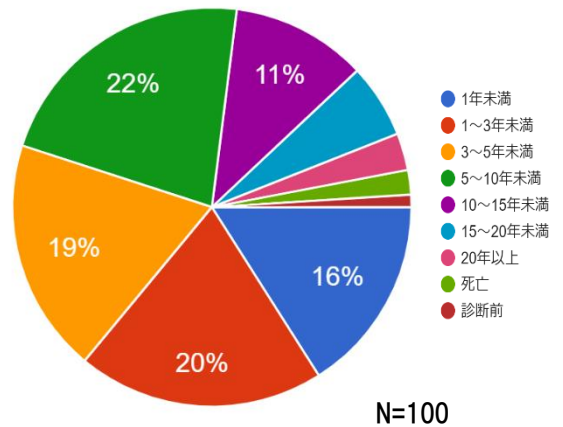
【罹患部位】



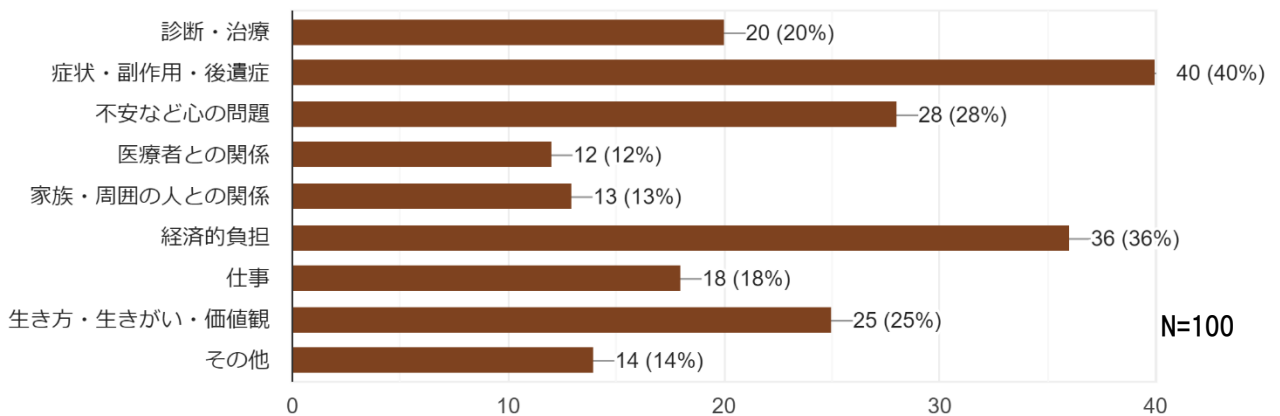
【現在の治療状況】



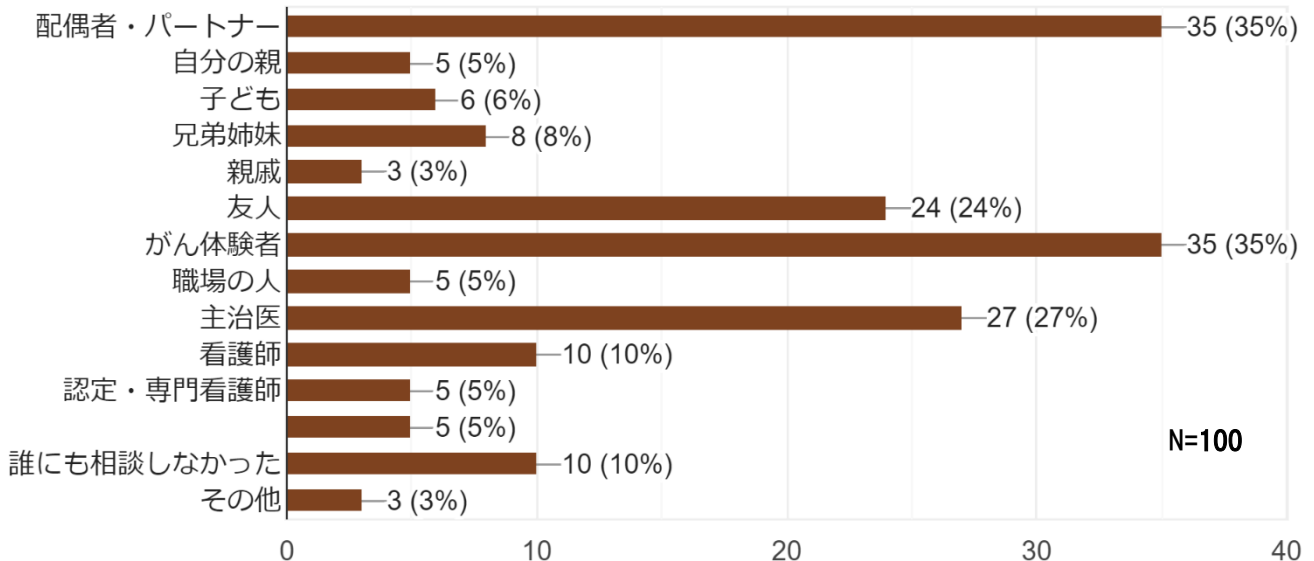
【診断後の経過】



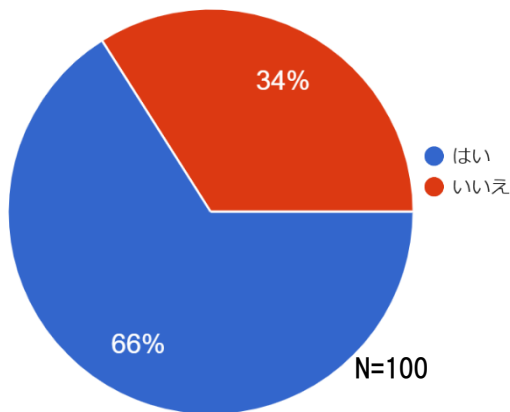
【悩みや不安について】



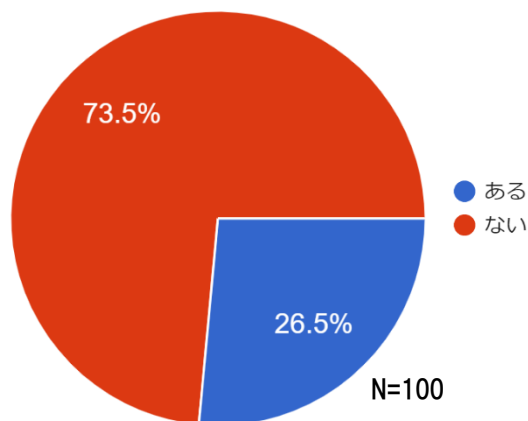
【悩みや不安の相談相手】



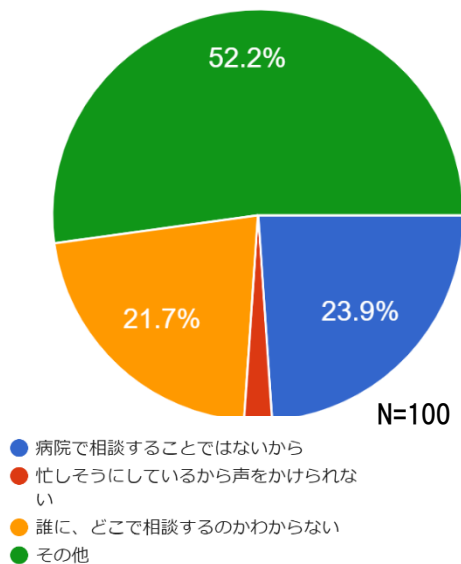
【相談支援センターを知っている】



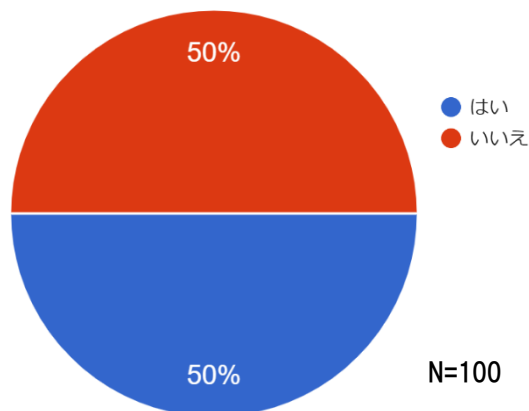
【利用したことある】



【相談したことのない理由】



【がん治療を専門とした看護師を知っている】



【困りごとや医療に求める事】

- ・ 病院では相談できないことも気軽に相談できる場所と人がいると安心
- ・ 離島から治療に通っていましたが、経済的な負担が大きく次第に精神的にも追い詰められていった
- ・ 副作用について主治医には幾度となく訴えたが、こんな事例はないと向き合ってもらえなかった。もっと患者の声と向き合って欲しかった。
- ・ 地域医療体制の充実化。金銭的サポートの充実化。
- ・ 日常でも転移、再発への治療への不安は尽きません。夫や子供の事を思うと涙が出ます。その他にも性、妊娠、子育て、仕事、医療費、住宅ローンなど世代なりの心配事もあります。
- ・ 八重山でも十分な医療体制がほしいと本当に願う。癌の部位によっては、飛行機に乗れなくて、島で出来る治療には限界があった。
- ・ 医療の事に津いてわからないこともあるので上から目線ではなく同じ目線で接してくれるといいなあと思います。

- 予約をしても、待ち時間が長いということです。
- 担当医者は、忙しく遠慮があるため、各医院、相談コーナーがあれば、心強く思います
- 患者会は楽しいので続けて欲しいと思っています
- 何年か経過し、ようやく主治医より緩解と告げられました。辛いことも多くありましたが、これからは何か役に立つことができればと思っています。
- 医療者の不適切な発言に傷つくことが多い。
- 医療者側は患者本人の痛みが全く分かっていない。
- 精神面も含めて一緒に考える医師がいない。
- 患者目線に立った対応を希望する。
- 特に喉頭がんの場合は術後のケアを1週間でも良いから病院でしてほしい。手術が終了したら即退院では生活（コミュニケーション他）そのものへの不安が大きい。
- 「がん」と言われてすぐ「死」のことへの知識しか思い浮ばず毎日が不安だった
- 本島と地域の医療格差を大きく感じる。特に「がん」に関しては抗がん、放射線治療が主になっているのに、受けられない患者（経済的、症状等でいけない方）がいるのは、医療の不平等で心が痛みます。
- 治療の為に本島に行くのは身体的、経済的にも負担が大きいのので、地元の医療体制が整って欲しい。
- 患者にとって、島外での治療は精神的、経済的負担も大きく、体力的にも厳しい状況を強いられている
- 主人のがん治療で収入が減り福祉事務所に相談したが、「自宅を売ってから治療費に充てるように」言われた。福祉とはなにか？お金のない人生は生活が苦しいと言っても助けてくれる福祉でなければ、生きてることさえ意味がないと考え、行政への不信感を持っている。